

言葉を越えて心をつなぐ ～姫路の外国人サポート活動～

姫路市立琴丘高等学校
2年 辻 莉愛

課題設定

課題設定

どうすれば好きな英語で人の役に立てるだろうか【進路実現】

姫路の外国人はどんなサポートを必要としているだろうか【社会貢献】



調 査

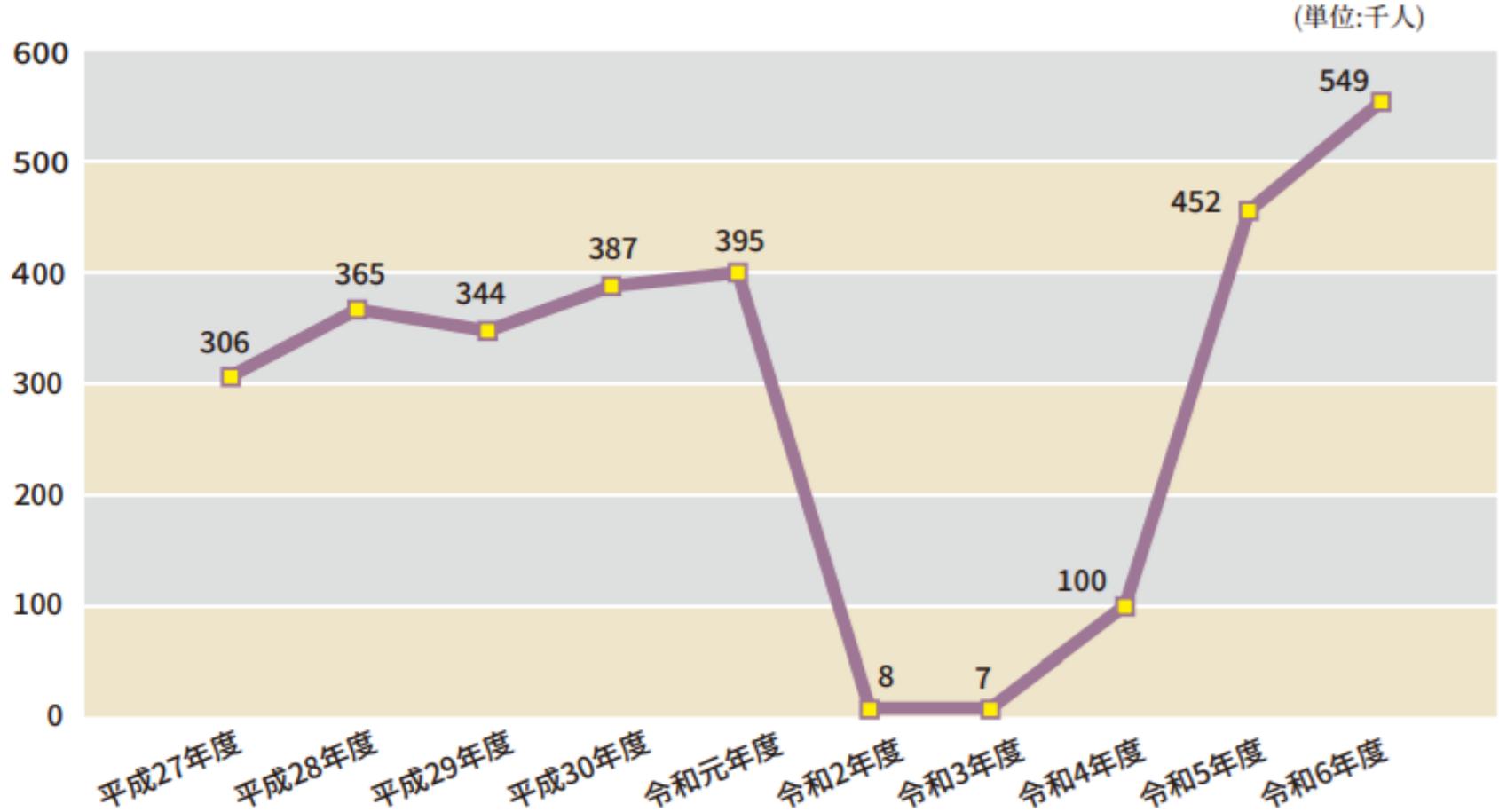
姫路の現況その1

姫路城観光客の外国人観光客数は過去最高！



(1) 姫路城

外国人観光客数(入城者数)の推移

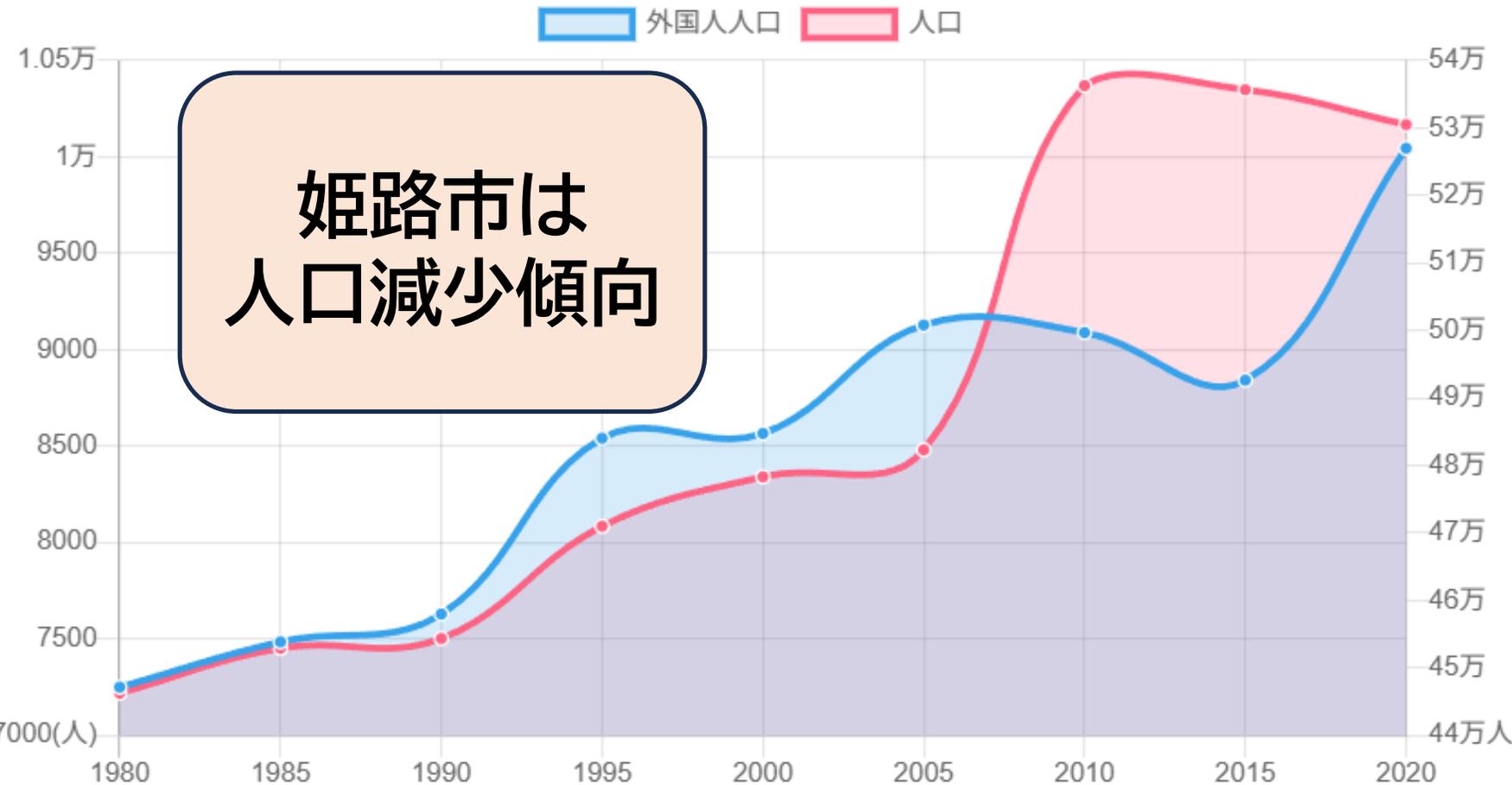


観光客数 ↑
経済効果 ↑

姫路の現況その2

姫路在住外国人人口も過去最高！

姫路市の外国人人口
推移グラフ(1980~2020年)
(graphtochart.com作成)



新着情報！

令和7年12月1日現在
姫路市住民基本台帳
外国人人口15,005人

出典：姫路市 デジタル戦略室



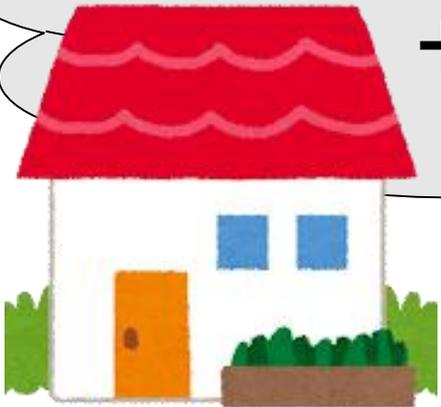
仮 説

仮説 ～課題解決の第一歩～



姫路の外国人観光客への
サポートやおもてなしの充実

姫路在住外国人
サポートの充実



姫路城ガイド



姫路城の障子紙づくり



日本語学習支援ボランティアの準備

HOME > 日本語学習支援ボランティア養成講座

日本語学習支援ボランティア養成講座



姫路市には、色々な国々から様々な目的で来日した人たちが生活をしています。

こうした人たちは、日本語ひろばをはじめとする、市内の日本語教室で日本語を学習しています。

当財団では、外国ルーツを持つ人々の日本語学習支援をしていただけるボランティアを募集しております。

ボランティアを開始するにあたり、当財団が主催する「日本語学習支援ボランティア養成講座」を受講していただくことが必須となっております（420時間日本語教師養成講座を受講済の方は除く）。

この講師をお招きし、ボランティアとしての心構えや外国人とのコミュニケーションの取り方等を丁寧に説明いただけます。

やさしい日本語
ならわかります。

あ

い

う



姫路在住バングラデシュ人向け 生活ガイドブックづくり

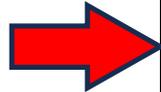


👉 バングラデシュ人
留学生とともに
企画会議



姫路在住バングラデシュ人向け 生活ガイドブックづくり

順位	国籍	人員
1位	ベトナム	4,782
2位	韓国	3,798
3位	中国	1,317
4位	ネパール	771
5位	インドネシア	667
6位	フィリピン	664
7位	ミャンマー	469
8位	朝鮮	404
9位	ブラジル	151
10位	バングラデシュ	122
11位	米国	114
12位	スリランカ	108
：	：	：
総 計		14,064



👉 姫路市在住外国人人口
国籍別ランキング

(令和7年4月1日現在)

※姫路市デジタル戦略本部のオープン
データをもとに作成



姫路在住バングラデシュ人向け 生活ガイドブックづくり

③ 心持ちについて

- 問題：
- ・できないから、やってみないという人が多い
→ チャレンジ精神がない。
 - ・できる人がいるのに、その人に聞くしらない
→ 意欲がない
 - ・できる人がいるから、自かほしなくていいや! と思う人が多い
→ 甘え、他人任せ、
 - ・受け身な人が多い
(= 自分からやろうとしない)

- 解決策：
- ・最初から出来ない人は多い、出来ないのは当たり前
→ でも、やる前から諦めるのではなく、まず、やってみよう
 - ・できる人がいるからこそ、教えてもらえるチャンス
→ だから、できる人に積極的に聞いて、教えてもらう
 - ・自分から積極的に行動する
→ = 言われてやるX、自分から!

在住バングラデシュ人の
主体性のなさ、心の面
を何とかしたい！

(企画会議に参加した
バングラデシュ人留学生)

📖 私のノート



検証と未来への展望

【姫路城ガイドと姫路城の障子づくり】

- ・身近な地域の魅力を知ると、私たちの**心**に誇らしさや、大切にしていきたいという愛が芽生え始める。

→ 外国人の**心**にもそんな誇らしさや愛があるのだろうと思って向き合っていると、相手の伝統や文化を尊重できたり、対等な関係をつくっていきけるはず。



【姫路在住バングラデシュ人向け生活ガイドブックづくり】

- ・「日本語や日本での生活スキル」はもちろんだが、「日本で生活する**心**の持ち方」を支える指針や相談相手が重要。→外国人の孤立・犯罪防止にも。

- ・ガイドブックが完成したら、在住バングラデシュ人の生の声を聴いて検証を深めたい。

持続可能な地域にしていくには、

外国人観光客や在住外国人と良好な関係を構築することが重要。

→ インバウンド消費の最大化や、労働力不足解消。

→ 外国人の多様な視点や文化をまちづくりに活用。

私は今後も自分の心と言葉を磨き、

「言葉を越えて心をつなぐ」活動が続けていきたい。

